

平成31年3月22日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

平成31年2月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	51,982,991 万円	100.0%	99.5% (99.2%)	49,081,002 万円	98.0% (97.8%)
食 料 品	45,061,179 万円	86.7% (84.7%)	99.3% (99.3%)	42,501,336 万円	97.8% (97.8%)
農 産	6,760,685 万円	13.0% (12.7%)	94.7% (94.8%)	6,435,756 万円	93.4% (93.4%)
水 産	4,071,564 万円	7.8% (8.2%)	100.5% (100.4%)	3,868,270 万円	98.9% (99.1%)
畜 産	5,714,080 万円	11.0% (11.2%)	99.7% (99.7%)	5,417,156 万円	98.0% (98.0%)
惣 菜	5,288,884 万円	10.2% (10.0%)	100.7% (101.4%)	5,022,733 万円	98.8% (99.9%)
日配食品	9,998,737 万円	19.2% (18.7%)	99.3% (99.2%)	9,110,837 万円	98.0% (97.7%)
加工食品	13,227,228 万円	25.4% (23.8%)	100.8% (100.4%)	12,646,584 万円	99.2% (99.1%)
生活関連	3,000,107 万円	5.8% (6.2%)	99.3% (99.3%)	2,910,443 万円	98.8% (97.9%)
衣 料 品	1,199,447 万円	2.3% (3.0%)	97.0% (95.8%)	1,161,244 万円	97.2% (96.0%)
そ の 他	2,722,258 万円	5.2% (6.1%)	103.4% (100.0%)	2,507,979 万円	100.3% (98.2%)

② 数 値

全店総売上高	51,982,991 万円	店舗数	4,756 店舗
総売場面積	9,429,562.8 m ²	総従業員数	249,932 人

店舗平均月商	10,930.0 万円	平均客単価	1,908.1円 (99.6%)
月間m ² 売上(前月)	5.5 万円 (5.9万円)	平均店舗面積	1,982.7 m ²
月間坪売上(前月)	18.2 万円 (19.4万円)	パート比率(前月)	77.4% (77.7%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 2月の天候について、全国的に気温が高く、降雪量はかなり少なかった。降水量は、北日本と東日本の日本海側で少なく、九州南部と沖縄・奄美で多かった
- ・ 生鮮品の相場状況について、青果では、前月に引き続き大型野菜を中心に、前年と比べて大幅な安値が続いた。水産物は、入荷量が前年と比べ減少したため、卸売平均価格はやや高値で推移した。畜産物では和牛、国産牛が高値で推移し、鶏むね肉が安値で推移した

《 商品動向 》

・ 農産

- ・ 前月に引き続き野菜が不調。白菜や大根、キャベツなどの大型野菜の相場安が続いており、加えて前年の相場高騰の反動もあり、大幅な単価減少の影響を受けた
- ・ サラダ関連では、トマト、ブロッコリーが売上を伸ばした一方、カット野菜は前年伸長からの反動もあり不調であった
- ・ 果物が好調であった。国産果実では主力のいちごのほか、りんごやみかんなどの柑橘類が好調とするコメントが多かった
- ・ 輸入果実も売上を伸ばした。ぶどうの動きが良かったほか、テレビ番組で健康への効果が紹介されたキウイフルーツやアボカドに特需がみられた

・ 水産

- ・ 節分の手作り需要を取り込んだ寿司商材が好調であった
- ・ 前年より高い気温の地域が多く、刺身などの生食関連が好調となった一方、鍋物商材が伸び悩んだ
- ・ 販促の強化もあり、ちりめんが好調であったほか、海藻類の動きが良かった

・ 畜産

- ・ 牛肉が概ね好調であった。前年より気温が高かったためステーキや焼肉用などの焼きメニュー商材が売上を伸ばした
- ・ 一方、豚肉が不調であった。相場の低下に加えて、豚コレラ発生の影響がみられた
- ・ 気温が高く推移したため、各畜種の鍋物商材が全体的に不調であった

・ 惣菜

- ・ 春の食材（タラの芽、菜の花など）を使った商品など、季節感を打ち出した商品が好調であった
- ・ 天ぷらやトンカツなどの販売強化の事例が多く、好調に販売できている

- ・ 日配・加工食品

- ・ 日配は、気温環境により水物（豆腐、こんにゃく）、麺などの鍋物・ホットメニュー商材の動きが悪かったほか、前年との野菜相場の違いにより、漬物や冷凍野菜が不調であった
- ・ 一方、テレビ番組で紹介された、納豆、梅干しの特需が続いている
- ・ 加工食品は、味噌（赤味噌、白味噌）、りんご酢にテレビ番組の健康報道による特需がみられた
- ・ サバ缶詰、食用油（アマニ油、オリーブ油）の特需も継続している。特にサバ缶詰は、商品供給も不安定となり品薄な状態が続いている

- ・ 節分の状況について

- ・ 本年は、メディアによる恵方巻の売れ残り商品の大量廃棄に関する報道の過熱に加え、農林水産省から作りすぎ抑制の要請があるなか、予約販売の強化や販売予測の精度向上への取り組みが多くみられた
- ・ 巻き寿司の当日販売は好不調が分かれた。こだわりの海鮮素材を使用した高付加価値商品、食べやすいハーフサイズの商品が好調であった一方、不調の要因として、店舗特性による前年との曜日廻りの影響とするコメントがみられた
- ・ 一方、節分当日が週末にあたるため、手作り関連商品の動きが良かった
- ・ 豆まき（福豆、落花生）やいわしの丸干しなど、節分の風習に関連した商品は不調であった

- ・ バレンタインの状況について

- ・ チョコレート全体では、需要の減少もみられ不調とのコメントが多かった
- ・ 有名ブランドなどの高単価商品の品揃えを増やし成功を収める事例がみられたほか、テレビで紹介された高カカオチョコレートの販売が好調であった
- ・ 一方で、手作り関連商品は好不調が分かれる結果となった
- ・ そのほかの取り組みでは、バレンタインデー当日の洋食ごちそうメニュー（ステーキ、ハンバーグ、ローストビーフなど）の提案がみられた

以 上